

## 新人のプロフィール (1)



### 思い出をつくる

課長  
鷺見 丈

○ 1日の大半を統計課と一緒に過ごすこととなった。まずこのことを生涯の貴重な出来事と考えねばならない。人間これほどの深いかかわりを持つことは生涯でそう多くはない。大切にしたい。

職場での馬鹿っ話は大いに結構である。しかし、仕事では口角泡をとばすほどに大いに議論したらよい。主張すべきは主張し、譲るべきは譲る。中途半端以下の議論ではしこりも残り最もよくない。しかるのち、本当の協調心も生まれるものと思う。

○ 酒は百薬の長という。楽しい酒は最良の友であり、人との出会いの絆でもある。酒も世につれ、近頃大酒飲みは少なくなった。よいことである。私は分相応に気軽にちよいと一杯というようなのがよい。財布や、ましてや仕事を気にしてでは良薬にはならない。酒は元来楽しむもの。そう願いたい。

○ ゴルフをはじめてからもう10年にもなるがいっこうに上達はおぼつかない。不思議である。ゴルフは、プレー中己を集中させる魔力がある。その爽快感がたまらない。楽しみのゴルフである。勿論スコア・アップへの野望を胸に秘めつつ……。

○ 日曜大工も楽しい。大した道具も持たず、立派なものをつくるわけではない。専ら日常生活に利便な小もの設計、施工ではあるが、我が家にとっては大変重宝がられていると自認している。これは、つくることよりあれこれ思案する設計の段階が最も楽しい。自己流の創造で苦心の失敗作も。

○ これからもせい一杯楽しい思い出づくりに励みたいものである。



### 回 想

教育農林統計主査兼係長  
勝村 武夫

県庁に入って第8回目(転動回数)の新入生の気分を現在味わっておりますが、右も左もわからない新採当時を想

い出したので、ご笑話頂きたい。

終戦間もない頃、庁内は比較的小じんまりとした感じで、対外的抵抗もなく、現在とは比べようもない時代でした。復員服を着用して机に1日座っていることが、身体にきゅうくつで1日に何回も廊下や手洗所・他課などをぶらついていたものです。

そんな或る日、課に戻るなり、上司から『この書類に知事のはんをもらってくるように』とのおおせがありました。知事のはんは、知事室へ行って知事(当時はまだ官選時代)にもらえばよいものと自分で判断し、勇んで知事室へ――。会議中の友末知事へ書類を差し出した。知事は眼鏡を上げ、目を通しながらはんを持ちあげようとした瞬間、『これはなんだ?!』。即座に秘書主任がかけつけた。『こちらへ来たまえ。君は何課だ。困るなあ、主任属によく話しておくから課へ戻りなさい』。

課に戻るなりとなりつけられると思ったが、『新入1か月の君に行き先を話さずに悪かった』と逆にあやまれた。『判任官以上でないと、はいれないところによく行ったなあー』とひやかされたが、当の本人は全然知らなかったから、平気なものだった。実は、それは地方事務所に対する10数枚の予算令達文書で、その知事印は文書課の知事職印であって、今思えば何とも複雑な気持であった。

第8回目の新入生といえども新入生は新入生、「聞くは一時の恥」を大いに励行し、1日も早く1人前の事務処理が出来るよう、皆さん方のご支援を賜りたいものであります。



### 新しい暮らし

商工労働統計係長  
米川 実

なだらかな丘の上にある、緑深い自然環境に恵まれた、ばらき台団地にマイホームが実現して、はやくも1年が過ぎ去った。

街中での便利な生活に馴れた私達には、新しい生活への期待というよりも、不安感のほうが大きかったが、今ではもう新しい暮らしにすっかりなじんで、すぐれた生活環境のもとで、ゆとりとうるおいのある生活設計を考えることができるようになった。

朝はやく小鳥のさえずりで眼をさまし、ウグイスの声を聞いて出勤し、夕べにはカエルの合奏を背に帰宅し、夜空に輝く星を仰いで、心の安らぐひとときを過ごすことができる。

思春期を迎えた娘達2人も、1室づつ占領してレコードに聞き入ったり、花を生けたりして、それぞれに好きなこ

